

平成24年度 附属図書館年度計画（抜粋）

平成24年1月20日
名古屋大学附属図書館

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

K1-1. 引き続き、中央図書館、分館、部局図書室の相互の連携を保ちつつ、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」担当教員の協力も仰ぎながら、留学生向けの英語基本図書のさらなる整備・充実を図る。

K1-2. ラーニング・コモンズサポートスタッフによる留学生向け講習会の開催を進める。

K1-2. G30担当教員と連携し、G30授業用パスファインダー作成について協議する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

K2-1, K2-2. 教員と連携し、ラーニング・コモンズを活用した情報リテラシー教育を行い、学生の自主学習を支援する。

K2-3. 学習支援実践WGで、全学的な情報リテラシー教育のスタンダードを作成する。

(3) 学生の支援に関する目標

K3-1. サポートスタッフのサービスマニュアルを作成し、高等教育研究センター等と連携しサポートスタッフへのトレーニングを進める。(K2-3も参照)

K3-2. 利用状況調査結果に基づき、蔵書整備アドバイザーへのフィードバックを実施する。

K4-1. 達成目標に基づいた講習会カリキュラムの作成を行い、体系的に講習会を開催する。

K4-3. ホームページからの学生用図書推薦受付を強化し、学生用図書の整備・充実を図る。

K4-4. 学習用図書の利用状況調査に基づき、蔵書整備アドバイザーへのフィードバックを実施し、蔵書整備アドバイザーと協議のうえ、学習用図書の整備を行う。

K4-5. 英語版テンプレートを活用し、担当教員と協力して、パスファインダー英語版作成を進める。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準、成果及び実施体制等に関する目標

K5-1. 2013年の購入外国雑誌・電子ジャーナルを決定する。2014年以降の電子ジャーナル及びデータベースの持続的かつ効果的な整備のため、具体てきな施策を引き続き検討する。

K5-2. 水田文庫の第II期分の整理を行う。

K5-4. 電子書籍のMARCデータを図書館システムに取り込み、電子書籍の目録の整備を図る。

K5-5. 準貴重書である神宮皇学館文庫、森本文庫、岡谷文庫を中心にコレクションの目録公開を進める。

K5-6. 提案を基に導入を検討する。

K5-7. 学内ILL(InterLibrary Loan)にe-DDS(電子的な文献提供サービス)を導入する。

K6-2. UPKI-Federationによる認証を電子ジャーナルへのサービスの活用を(関連部署と連携しつつ)進める。

K7-1. アップローダーの機能についてコンテンツの提供者からフィードバックを受け、よりコンテンツの提供が効率的に行えるよう改良を加える。

K7-2. 完成したスターターキットの適用を希望する学内刊行物をさがし、活用方法について協議する。

3 その他の目標

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

K8-1. 貴重資料のミニ展示、電子掲示等により、図書館資料の一般への公開を行う。

K8-2. 「図書館友の会」会員増加のため、会員向け図書館ツアー等の新たな企画を実施する。

K8-3. 大学図書館間及び公立図書館との相互協力を推進するため、研修会等を開催する。

K9-1. 引き続き、分館と部局図書室の協力を得ながら、英語による基本的な図書(学習ツール・ライティング資料などを含む)の整備を継続的に進め、さらなる充実を図る。

K9-2. 館内サインの英語化を継続して行う。

K10. 海外のILL情報の内、入手が難しい国の博士論文入手方法について調査し、利用環境の改善を図る。

K11. 図書館Webサイトでの中国語による情報提供を進める。

K12 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

K13 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

K14.蔵書整備等の事項について所掌委員会の見直しに着手する。

K15-1. 研究開発室兼任教員との連携により、電子情報サービスへのシフト等、新たな図書館サービスを検討する。

K15-2. 特任准教授のポストを引き続き確保し、学内類縁機関との連携に基づいた高木家文書等の研究を推進する。

K15-3. 学内類縁機関と連携について検討する。

K16-1. 利用者サービス業務の効率化を進める。

K16-2. 職員育成ポストの第1期の成果に基づき、職員育成ポストの運用を継続する。

K16-3. K15-3に記述

2 事務等の効率化・合理化に関する目標

K17-1. 図書系職員の専門的能力開発プログラムに基づき、次世代図書系職員の育成を引き続き推進する。

K17-2. 引き続き地区を中心に人事交流を検討し、推進する。

K17-3. 引き続き図書館職員のための研修プログラムを計画的に実施する。

K18-1. 検討グループ内で図書館システムについての議論を進め、次期システムの仕様について素案を作成する。

K18-2. 23年度に実施した自己点検評価をもとに業務の点検、見直しを行う。

K18-4. 23年度の改善結果を評価し、業務見直しを継続する。

財務内容の改善に関する目標

1 外部資金、寄附金その他の自己収入に関する目標

K19. 各種の助成金について申請スケジュールに基づき確実に申請を行う。

K20. 昨年度実施できなかった国内の事例調査を行う。

2 経費の抑制に関する目標

K21-1. 電子ジャーナル等の電子情報資料に関しては、全国レベルのコンソーシアムに参加し、購入費の抑制を図る。

K21-2, K22-3. 他機関の資料調達の方法の有効性・適用可能性を引き続き調査し検討する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

K22-1, K22-2. 昨年度に引き続き、不要図書を除却後、ホームカミングデイの「本のリユース市」で販売し、収益金により学生用図書の充実させる。

K22-3. 地下書庫等のカビ対策等、環境整備を行う。

K22-4. 伊藤圭介文庫の翻刻データの電子化を完了する。小林文庫及び神宮皇学館文庫の「古典籍内容記述的データベース」への登録を進める。

K22-5. 全学の遡及入力実行計画(平成23年～27年度)に基づき、目録公開を進める。NIIの次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業に応募し、準貴重書である和漢古書の総合目録データベースへの登録を進める。法判例・議会資料について、遡及入力を進める。

K22-6. 「愛知県図書館定期便実証実験」による公共図書館への貸出についての案内をさらに充実させ、利用を促進する。

- K23-1. 試験期間に警備員による巡回を行う等、防犯対策を強化し、利用者の安全を図る。
K23-2. 引き続き5階事務スペースの一部を改修し、研究者スペースの設置を行う要求を行う。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 自己点検・評価に関する目標

K24. 23年度の自己点検評価に基づき、サービスの改善を図る。

K25-1. 平成23年度に行った分析をもとに蔵書構成の見直しやサービスの向上に向けた計画を作成する。

K25-2. 23年度の自己点検評価も踏まえ、外部評価を実施する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

K26-1. 機関リポジトリ内のデータや紀要そのもののデータを、よりさまざまな機械可読形式で提供できるように調査検討する。<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/pub/bulletins.html>

K26-2. 機関リポジトリに登録しない博士論文をふくめて、博士論文の目録を効率的に一覧・検索できる仕組み

その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備等に関する目標

K28-1, K28-2. 引き続き「キャンパスマスタープラン2010」にそって附属図書館ストレージの実現に向けた要求を行う。また、ストレージ設置後のスペース活用について検討を進める。

K28-3. 学習支援実践WGで、ラーニング・コモンズ等学習空間デザインについて、検討し、部局図書室等での学習環境改善の指針を策定する。

K29. 照明器具の省エネルギー化(LED照明化)をフロアー毎など計画的に進める。

2 安全管理に関する目標

K30-1, K30-2. 利用者の安全確保のため、警備員による巡回等防犯対策を強化する。

K31-1. 引き続き、名古屋大学地震防災訓練時に、中央図書館利用者の訓練参加を進める。

K31-2. 引き続き、非常時行動マニュアルの見直しを行い、職員に説明会を実施する。

3 法令遵守に関する目標

K32. コンピュータの利用におけるセキュリティ確保のために、最新の事例をとりいれ、啓発活動を続ける。